

研究・調査報告書

報告書番号	担当
73	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake and cardiovascular disease and mortality: the role of pre-existing disease. アルコール摂取と心血管疾患発症・死亡率の関係：既往症の関与	
執筆者	
Friesema IH, Zwietering PJ, Veenstra MY, Knottnerus JA, Garretsen HF, Lemmens PH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol Community Health. 2007 May;61(5):441-6.	
キーワード	
アルコール摂取、心血管疾患、総死亡、既往症、健康度	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>既存の健康状態がアルコール摂取と心疾患発症のJ型関係の原因であるとの仮説がある。本研究では以下の2点について検討した。第1に未飲酒者、飲酒中止者と適量飲酒者の間に健康度に違いはないか、もし違いがあれば両群で健康状態にどのような差異があるのか。第2に飲酒量と心血管疾患発症・死亡率、総死亡率との間のU型関係は既往症によって一部でも説明できないか。</p> <p>方法：</p> <p>前向きコホート研究 the Lifestyle and Health Study, は年齢 45～70 歳、16,210 人の男女を対象とした研究。飲酒情報とリスクファクターを自記式調査票により追跡開始時に調査した。医学情報は一般開業医の診察により得た。心血管疾患発症と死亡を 1996～2001 年の 5 年間追跡した。</p> <p>結果：</p> <p>未飲酒者、飲酒中止者は適量飲酒者に比べて健康度が低かった。未飲酒者、飲酒中止者は自己評価で健康状態が良好でないとする率が高く、心血管疾患、糖尿病、さらに飲酒関連疾患などより多くの合併症を有していた。しかしながら合併症の差異は未飲酒者、飲酒中止者と適量飲酒者における心血管疾患発症の差異を説明することは不可能で、また飲酒と総死亡率のU型関係に僅かにしか影響を与えなかった。</p> <p>結論：</p> <p>未飲酒者、飲酒中止者と適量飲酒者における健康度の差異は心血管疾患発症および総死亡率の差異に対して僅の原因としかならなかった。</p>	